

となり町戦争

2007(平成19)年1月18日鑑賞(角川ヘラルド試写室)



監督・脚本＝渡辺謙作／原作＝三崎亜記『となり町戦争』（集英社刊）／出演＝江口洋介／原田知世／瑛太／菅田俊／余貴美子／飯田孝男／岩松了／小林麻子（角川ヘラルド映画配給／2006年日本映画／114分）

……何とも恐いタイトルのこの映画の原作は、「10年に1度出るか出ないかの逸材」が書いたもの。「本当に戦争をやってるんですか？」というバカげた質問は、現実に「戦死者」の数を知り、あなたが戦争を「体感」すれば吹っ飛ぶはずだが、主人公をはじめとする多くの舞坂町民たちは……？ マンガ的な描き方も多いが、決してそれを笑えないところが恐い。それはやはり、となり町と現実に戦争しているせい……？



卓抜したアイデアに驚愕！

知っている人は知っていても、知らない人は知らないもの……。『となり町戦争』というタイトルを見て、こりゃ一体ナニと思ったのは、私がいかに近時のヒット小説に疎くなっているかを端的に物語るもの……？ 三崎亜記原作の『となり町戦争』は、2005年第17回小説すばる新人賞を受賞するとともに、その選考会で議論を引き起こし、多くの作家や批評家また各界の著名人たちから絶賛されたとのこと。また、本書でデビューを果たした著者は、「10年に1度、出るか出ないかの逸材」と称賛を受け、一躍文学界の注目の的となっただけならいい。

その物語は、舞坂町とそのとなりにある森見町との「戦争」を描くもの……？ 「広報まいさか」によれば、その開戦日は5月7日、そして終戦予定日は8月31日とのこと。しかし、それって一体ナニ……？ ホントに戦争しているの……？ すると、戦っているのはダレ……？ そして、広報される戦死者の数ってホント……？ 読者にそんな疑問を次々と湧かせるだけでその小説は成功したも同然

……？ タイトルに込められた、卓抜したアイデアに驚愕！

とある地方のまちのイメージは……？

藤沢周平の描く小説『蝉しぐれ』や『盲目剣笈返し』の舞台が東北地方の小藩である海坂藩であることは、今ではかなり有名になっているが、実はこれは架空の藩……。しかして、三崎亜記の『となり町戦争』で描く舞坂町と森見町も、どこの県に所在しているのかわからない「とある地方のまち」というだけ……。

1995年に改定された合併特例法の施行以来、「平成の大合併」として市町村合併が急速に進んだ結果、2005年4月現在、市町村の数は3232から1820に激減した。人口5万人以上になれば市に昇格できるが、その数に至らない都市が、まだ町や村として残っているわけだが、近い将来ごく一部の例外を除いて町村は次々と合併し、そのほとんどが市に昇格していくのでは……？

そうなれば、となり町戦争という想定自体ができなくなるわけだが、それはともかく、私はこの舞坂町と森見町のある県はどこが適切だろうかかと必死で考えていたが、その答えは意外と難しい……。町役場があり、電車（列車）が走り、舞坂駅と森見駅が存在しなければならないのは当然だが、両町にまたがるような位置関係での小高い山と、両町にわたって流れる川は絶対に必要……。難しいのは、両町があるのは寒い地方かそれとも暖かい地方かだが、それについてもこの映画（原作？）は何も触れないまま……。さて、あなたがこの映画でイメージする、「となり町戦争」が勃発した「とある地方のまち」のイメージは……？

主人公の年齢設定は、ちょっと疑問……。？

主人公北原修路は、舞坂町にある旅行会社「ツーリストスカイ」に勤務する入社1年目の独身社員と設定されている。同僚の女性社員本田（小林麻子）とくわえタバコでキャッチボールしながら交わす会話の中で、彼は「目下、女はいいかなと思っている……」と言っているから、入社1年目とはいっても、前の会社で何らかの曰く因縁があったよう……。したがって、この北原の実年齢は何歳に設定してもいいのだが、映画ではその実年齢を明らかにしていない。しかし、仕事はほどほど、独身の身分で安アパート生活に結構満足、そしてもちろん戦争の話

題などには無関心という、この主人公のイメージはやはり20代後半……？

したがって、1968年生まれの江口洋介がその北原役を演ずるのは、多少違和感がある。というよりも、私の見立てでは、江口洋介の実年齢である39歳ともなれば、もう少ししっかりしていても当然だろうと思えるわけだ。そこで20代後半のイメージであれば、オダギリジョー（30歳）やユースケ・サンタマリア（35歳）など、もう少し若く、頼りない面を前面に出してくるのにピッタリの俳優を起用した方がよかったのでは……？ もっともこれは、この映画での江口洋介の演技にケチをつけるものではないから、念のため……。

またひとつ幅を広げた原田知世

江口洋介とほぼ同じ世代で1967年生まれの原田知世も、2007年の今年40歳になるわけだが、昨年の『紙屋悦子の青春』を筆頭として、『姑獲鳥の夏』（05年）、『大停電の夜に』（05年）などその活躍ぶりは著しく、その演技力と美しさになお一層磨きがかかってきたよう……。1960年生まれの黒木瞳は、あの大ヒット作『失楽園』（97年）の後は『東京タワー』（04年）のみで、最近は『さとうきび畑の唄』『二十四の瞳』『プリマダム』などのテレビドラマで頑張っているが、映画での活躍は『愛の流刑地』（06年）の寺島しのぶに譲り気味……。そのため、映画での原田知世の存在感は今やかなりのもの……。黒木和雄監督の遺作となった『紙屋悦子の青春』での彼女の抑えた演技は絶品だったが、この『となり町戦争』で彼女はまたひとつ演技の幅を広げたよう……。

こんな女まっぴら……？

原田知世が演ずるのは、舞坂町役場の戦争推進室という何とも恐ろしい部署に配属されている地方公務員、香西瑞希。ちなみに、戦争について最終判断を下す舞坂町長（菅田俊）が言っていることは一見まともそうだが、実は彼の最大の関心事は「支持率」……。そして何とも個人的な（？）戦争推進室の室長が余貴美子演ずる室園絹子であり、ノンキャリアの代表のような室長補佐が飯田孝男演ずる前田善朗。戦争推進室という部署に配属されるような人間は所詮「ヘンな奴」なのかもしれないが、そのヘンなキャラを確認しつつ、唯一人（？）戦争推進室

の中で勤勉かつ有能な公務員としてその「業務」をこなしている香西瑞希に注目！

彼女の年齢設定があいまいなのも私は多少気に入らないが、映画上の設定としては、30歳前後の有能な吏員、そしていつも能面ながら、よく見ると美人……？ そうでなければ、「業務」に忠実なばかりのこんなお固くて面白くなく、そしてイヤな女に、遊び人(?)の北原が惹かれるはずはない……？

なぜ戦争しているの……？

この映画のタイトルとそのチラシを見て、私が最初に思ったのは「なぜ戦争しているの……？」ということだが、当然それが映画の中で明らかにされることはない……。そして、多分それは小説でも同じはず……。なぜなら、三崎亜記が小説の中に表現しようとした舞坂町と森見町との「となり町戦争」というのは、現実に起こっているけれども、それは一般町民にはあくまで妄想・幻想の世界であって、それぞれの平和な生活とは無関係な世界なのだから……。したがって、誰が、なぜ、何のために、人間の命が現実に失われる戦争をしているのかということを実際に説明するのは難しいはず……。

もっとも、日本が1930年代から日中戦争、そして大東亜戦争に踏み切った時、日本政府はその戦争の「大義」を必死になって国民に説明していたし、それは日清・日露戦争の時も全く同じ。また、アメリカがベトナム戦争やアフガン戦争、イラク戦争に乗り出す時も、アメリカ政府がアメリカの若者たちに送ったメッセージも、なぜアメリカが異国の地に赴いて戦争をするのかについて、必死に語ったもの……。しかしこの映画では、舞坂町と森見町はなぜ戦争しているのか、それが全く見えてこないから、香西さんからの「辞令交付式」の電話連絡を契機として、以降ズルズルと「となり町戦争」に巻き込まれていった北原とともに、私たち観客もホントにその恐さを実感させられることに……。

フィルム・コミッションとは……？

小説や映画の設定上、その舞台が明かされていなくても、映画を製作するについては、ロケ地の設定が問題となるのは当然。昨年12月3日、キネマ旬報社とキネマ旬報映画総合研究所が主催する映画検定3級を受験し、1月13日に見事合格

の通知を受けた私はよく知っているが、皆さんはフィルム・コミッションという言葉をご存知だろうか……？

これは「映画製作をスムーズに進行させるために可能な限りの便宜を図り、ロケ地のPRや雇用機会の増大、製作に関わる物品の販売促進等の経済効果を狙った機関」のこと（『映画検定 公式テキストブック』204頁参照）。そして、今回この『となり町戦争』の製作に関与したのがえひめフィルム・コミッション。つまり、この映画製作の舞台となったのは、私の出身地である愛媛県というわけだ。

近畿愛媛県人会の効用は……？

もっとも、愛媛県の県庁所在地であり、私の生まれ故郷である松山市での撮影はバッティングセンターのみで、メインロケ地は東温市とのこと。香西さんが夜遅くまで頑張っている舞坂町役場も、町としては少し立派すぎるかなと思っていたが、実は東温市役所の建物。また、北原と瑞希が川に浮ぶ船でデート(?)しているシーンは舞坂町ではなく、実は大洲市を流れる川で撮ったもの。その他、この映画には私の故郷愛媛県の情景が満載……。ちなみにプレスシートによれば、クランクアップ前日の夕食は、大洲市の地元婦人会の方々を用意してくれた温かいうどんとおでんだったとのことだが、そりゃおいしいのは当然……。

このように愛媛県で撮影が続けられたため、愛媛県はもとより、私が所属している近畿愛媛県人会もさまざまな協力をしたらしい。その影響があったためか、今日試写室で私の隣に座った若者は、愛媛県大阪事務所のS氏。試写室で観るのははじめてということだったが、スクリーン上に登場する東温市や大洲市の景色は実は愛媛県の風景だということを広く宣伝してもらいたいもの……。

特別偵察業務から潜入偵察業務へ……

原田知世演ずる戦争推進室の瑞希はすべてを業務として捉え、その業務処理のための最善の方策を策定している優秀な地方公務員。そんな瑞希の任務は、戦争初期は戦争推進室での勤務だったが、開戦26日目からは北原に対して、「敵地内への潜入偵察に変わります。私と結婚していただくことになりました」との爆弾発言が……。

森見町のアパートを分室として、森見町に潜入して偵察業務を行うというのは、『インファナル・アフエア』3部作や『ディパーテッド』における潜入捜査官や潜入マフィアのような大変な任務……。そしてこんな場合、独身者では疑われるのが当然だから、北原と瑞希は新婚夫婦に偽装して、森見町に潜入……。

もっともそんな業務を遂行するために必要なマニュアルはすべて瑞希が作成するのが当然で、北原はそれに従うだけ。瑞希が作成する潜入偵察のためのマニュアルは、朝食・夕食の準備から、スーパーでの食材の買い出しまですべて完璧なものだが、もちろん夫婦を偽装して2人で住む部屋の寝室は別々……。

セックス欲望処理も業務のうち……？

そんなケツタイな生活がスタートする中、北原は「どうして俺を夫役に選んだの？」と質問したが、その少しデレデレした姿を見ていると、彼が期待している答えはおおむね予想できるもの……。ところが、これに対する瑞希の答えは、住基ネットで最も森見町から疑われない男性を選んだという、何とも味気ないものだったから、北原はガックリ……。

ところが、そんな味気ない潜入偵察業務をこなしていくうち、何とある日、北原の寝ている部屋の中に瑞希が1人入ってきたばかりか、静かに服を脱ぎ始めたから北原はビックリ……。そしてそんな状況になれば、どんな男でもそれに反応するのは当然……。しかして北原は瑞希との偽装結婚生活に結構満足しながらその潜入偵察業務を果たしていた。

ところが後日判明したところによれば、どうもそれも、瑞希の業務マニュアルの一環だったらしい……。すなわち、瑞希の書いた3枚目の業務マニュアルによれば、「セックス欲望処理」は1週間に1度。そしてその主任は北原、その補助者は瑞希とのこと……。ちょっと待ってよ瑞希さん、そんなことまで業務であり、マニュアルどおりの処理だったの……？

問題は、あなたの感性！

この映画の登場人物は、「戦争推進室」のスタッフだけではなく、大阪弁で言うところのケツタイな奴が多い。その第1は、ツーリストスカイ主任の田尻（岩

松了)。彼は仕事上ではいつもバカを言って笑っているが、実は某国での戦争体験があるとか、人殺し体験まであるとか……？ そんな田尻が「となり町戦争」で傭兵として登場してくる姿は圧巻！

第2は姉のコチコチぶり(?)に反発している、瑞希の弟の智希(瑛太)。こちらは一見戦争反対論者かナと思われたが、実は舞坂町の民兵を志願。そして遂に大規模な夜間襲撃で前線に立つことに……。そんな智希の運命や如何に……？

こう書くと、やはり森見町とのとなり町戦争は現実なんだということがわかるが、それを感じるができるかどうかはすべてあなたの感性にかかってくるもの……。安倍総理は、「憲法改正問題を参議院選挙の争点にする」と大見得を切り始めたが、戦後61年間平和を享受し、平和ボケになってしまっている、すぐそこで戦争をしていることなど体感できるはずがないのは当然……。しかし実は、となり町戦争はあなたの町でも、どの都道府県でも、そして日本国そのものも……？

戦争の行方は……？ そして恋の行方は……？

開戦○日目という表示の流れに従って、北原が次第に深く戦争に巻き込まれていく様子、そして命の恐怖を味わいながらの逃避行の姿が描かれていく。それがこの映画のメインストーリーだが、同時にサブストーリーとしては、北原と瑞希との恋模様も大切……。もちろん、瑞希がすべてを業務と割り切って行動していることに、北原は大いに疑問を感じているから、いくつかの局面においてその本音が瑞希に対してぶつけられるが、それにもかかわらず瑞希の姿勢には変化なし……。

しかしそれは、弟が「名誉の戦死」を遂げた後も同じ……？ あるいは戦争終結後、舞坂町の戦争推進室から今度は森見町に転勤することになっても同じ……？ 瑞希ほど人間的な感情を自ら抑制して業務を忠実に果たしている職員はいないだろうから、町役場にとっては貴重な人材だが、恋のパートナーとしては適性ゼロ……？ しかし、そんな女でもホレてしまったものは仕方がない……。そんな2人の恋の行方と結末は……？

戦争が無事終結し、その後2人はめでたく結ばれてハッピーエンド……。そんな単純な結末にはならないだろうと思うのだが……？

2007(平成19)年1月19日記